

平成 22 年度 市民活動支援講座

つづき楽校

卒業式

主催：横浜市都筑区民活動センター
横浜市都筑区役所地域振興課
日時：2011年2月3日（木）10:00～12:30
場所：横浜市都筑区役所6階大会議室



《仰げば尊し》

あおげば とうとし わがしのおん
おしえのにわにも はやいくとせ
おもえば いととし このとしつき
いまこそ わかれめ いざさらば

2011年2月3日（木曜日）のお昼すぎ、“仰げば尊し”の歌声が、横浜市都筑区6階の大会議室に響き渡ります。

それは、つづき楽生から、中島直子さん・田中さゆりさんへの、真心のこもった感謝の歌声でした。それは、つづき楽生と中島直子さん・田中さゆりさんとの「つながり」がさらに深まった瞬間でもありました。まさに、卒業式に集った皆さんが一体となった瞬間だったのです。

“つづき楽校・卒業式”は、筆者（山口：だがしや楽校コーディネーター・山形県米沢市在住）の人生の中でも、決して忘れることができない1ページのひとつとなりました。

卒業式では、つづき楽生一人ひとりが“つづき楽校”に対する思いを語りました。それは、心のこもった講演を聴いているようなものでした。それは、つづき楽生一人ひとりが講師であり、先生となった瞬間でもありました。

それに対して、中島さんは、つづき楽生一人ひとりに対して、あたたかな思いを語りました。なんという思いやりでしょう。“つづき楽校”では、つづき楽生一人ひとりに対して、あたたかなまなざしを注ぎ続けてこられたのでしょうか。つづき楽生一人ひとりを大切にする中島さんの思いをヒシヒシと感じた瞬間でもありました。

筆者は、つづき楽生一人ひとりの思いを聴いてはこみ上げ、中島さんのつづき楽生一人ひとりに対するあたたかな思いを聴いてはさらにこみ上げ、ビデオカメラを持つ手の震えを押さえるのに苦労したほどでした。

中島さんとは違ったキャラクターでつづき楽生を見守られた田中さゆりさんの力も非常に大きいです。つづき楽生の皆さんが、自発的に“つづき楽校”という講座を進めていく力を蓄積されたのは、田中さんの絶妙なサポートがあったからです。

このように、中島さん・田中さんは、主催者という枠を越え、つづき楽生の皆さんを温かく支えていたのです。

つづき楽生一人ひとりの“つづき楽校”への熱い思いと志の高さも“つづき楽校・卒業式”を感動的にしました。

こうして、中島さん・田中さんとつづき楽生は、主催者と受講生という関係を越え、一体となりました。

ところで、“つづき楽校・卒業式”の感動を予告することがありました。

3日前の1月31日、筆者は都筑区民活動センターを訪問し、中島さん・田中さんから“つづき楽校・わいわい横丁”（2010年11月14日開催）以降の様子をお聞きしました。実は、この時も感動モノだったのです。

すでに、つづき楽生の皆さんは、地域の人たち（個人・団体）や地域の活動と「つながり」、新たな活動へと展開していたのです。

例えば、昨年（2010年）12月21日には“ひとあしお先のクリスマス”を開きます。そこでさらに地域の人たちと「つながり」ました。それは、福祉・商店街など分野も様々なら、赤ちゃんから高齢者まで世代を越えた「つながり」でした。前後しますが、12月15日の“認知症講座”とも「つながり」ました。そして、つながったことにより、さらに新たな活動が展開していったのです。

その時の中島さん・田中さんの説明では、「ここに書き切れていない『つながり』が、まだあります」とのこと。本当に凄いです。

そんな中島さん・田中さんからの報告をお聞きしていたところに、つづき楽生のお一人・Nkさん（まんまるプレイパーク）が都筑区民活動センターに入ってこられます。

筆者の顔を見たN kさんは「山口さんのだがしや楽校報告を観たばかりです」と言って、偶然のタイミングに、ビックリされていました。

そのN kさんが出されたのは「つづき楽校という太陽を中心につながりはじめた。星がまわりはじめると宇宙のひろがりへ」という、A 4の紙に描かれた、まるで絵本のような図でした。そこには、N kさんが感じた「地域の人たちや団体・地域の活動と“つづき楽校”とのつながり」が、“つづき楽校”を中心に描かれていました。N kさんは、卒業式を控え、自発的に描かれたのです。誰かに指示されたわけではありません。すなわち、これがN kさんの“つづき楽校”への思いだったのです。

これで筆者は完全に打ちのめされました。

これが、きょうの“つづき楽校・卒業式”の感動につながりました。
そして思いました。

“つづき楽校”は永遠です。

実は、きょうの卒業式で修了した市民活動支援講座としての“つづき楽校”は、本年度（平成22年度）限りの事業であります。

でも、ご紹介したように、つづき楽生の皆さんは、“つづき楽校”をステップに、次なる活動へと展開しているのです。

市民活動支援講座“つづき楽校”は、地域の課題を解決しようという志のある方を対象にし、“だがしや楽校”という理念や手法を学ぶことによって、市民活動を支援し、横浜市都筑区での地域づくりにつなげるための講座です。ですから、卒業式が終わったこれからは本当の意味での“つづき楽校”が始まります。

そういう市民活動を支えるのが、都筑区民活動センターであり、中島さん・田中さんの活動です。だから、“つづき楽校”は永遠なのです。

中島さん・田中さんとつづき楽生の皆さんとの強い絆は、きっと住み良い地域づくりにつながっていくことでしょう。



《はじめに》

平成22年度市民活動支援講座“つづき楽校”の卒業式が、横浜市都筑区役所6階の大会議室にて執り行われました。

横浜市都筑区役所地域振興課と横浜市都筑区民活動センターでは、これまでも“市民活動支援講座”を開いてきましたが、平成22年度初めて1年間を通じた連続講座を開講することにしました。それが“つづき楽校”です。

筆者（山口：だがしや楽校コーディネーター・山形県米沢市在住）が“つづき楽校”を取材するのは、今回が3回目です。5月20日の初日と、11月14日の“つづき楽校・わいわい横丁”です。

“つづき楽校”開講までの経緯、“わいわい横丁”を開催するまでの講座の様子は、2回の取材レポートでお伝えしていますので、そちらをご覧くださいと思います。

◎2010年5月20日：初日の講座

http://web.me.com/okitama_radio/nikki100112/100520nikki.pdf

◎2010年11月14日：わいわい横丁

http://web.me.com/okitama_radio/nikki100112/101114nikki.pdf

ところで、あらためて“わいわい横丁”を振り返りますと、筆者（山口）がこの1年、全国各地で取材・参加・拝見した“だがしや楽校”の中で、最も印象に残っているひとつであります。それも、時間が経つと共に、ジワジワと心に深く刻まれるようになったのです。それはまるでスルメイカのような感じです。

あの空間・あの雰囲気、本当に忘れられません。

つづき楽生の皆さんが出されたおみせ（屋台）は、自分ができることで出されたおみせから、特技・得意なもの（作品）を持ち寄って出されたおみせまで、いかにも“だがしや楽校”らしさを感じる様々なおみせが出されました。

加えて、地域で活動されている人たち（団体）によるおみせ、各地から集まった“だがしや楽校”の仲間によるおみせも出され、あちこちで新たな出会いや交流の輪が広がっていく風景が見られました。

そして何より、つづき楽生の皆さんが、本当に楽しそうにしていたのが印象的でした。本当に素晴らしい“つづき楽校・わいわい横丁”だったと思います。

しかし、“つづき楽校・わいわい横丁”開催までには、ご苦労もあったようです。

11月14日付けの“つづき楽校・わいわい横丁”レポートでは触れていない開催まで経過を、ここで少しご紹介しておきます。

“わいわい横丁”が近づくにつれ、つづき楽生の皆さんは「成功させたい」という気持ちが強くなり、緊張感が高まり、ピリピリした雰囲気になってきました。こうして気が付いたら、最も大切にしたい「楽しい気持ち」が薄れているようになったのです。

中島さんは涙ながらに語り始めました。「今だからこそ・・・原点に立ち返ろう！！」と。

それは、“わいわい横丁”の僅か3日前の11月11日のことでした。

田中さんは田中さんで、つづき楽生の皆さんを激励しました。

中島さん・田中さんは、つづき楽生の皆さんに対して、真っ正面から向き合い、そして語りかけ、激励しました。それはある意味、真剣勝負だったかもしれません。

つづき楽生の皆さんは気が付きました。「型枠になんか、はまる必要はないんだ。自分たちが楽しめば良いんだ」と。そうです。自分たちが楽しむことで、人は集まるのです。人と人とがつながるのです。自分たちがしっかりした意志を持って楽しめば良いのです。

それに気が付いたつづき楽生の皆さんは、次第に丸くなっていったそうです。

そして“わいわい横丁”当日を迎えたのです。

つまり、この講座の本当の先生は、中島さん・田中さんだったのです。

だから、卒業式では、つづき楽生の素直な思いで、“仰げば尊し”を歌うことにしました。

中島さん・田中さんとも、都筑区民活動センターの相談員として活躍されています。お二人とも、とても素敵な女性です。このレポートを読まれている皆さんも、一度はお会いになってみてはいかがでしょうか。きっと癒されることでしょう。

ただし、自発的に「何かをやろう」という人には優しいですが、「〇〇してほしい」という人には厳しいですよ！

“わいわい横丁”が終わり、“つづき楽校”では、“わいわい横丁”を振り返りながら、理想の“わいわい横丁”を話し合いました。その中で、先にご紹介したように、地域とのつながりが築かれていったのです。

ところで、“わいわい横丁”で力を使い果たしたのか、中島さん・田中さんは順番に体調を崩されてしまいます。

その時、つづき楽生の皆さんは、自分たちの手で講座を進めます。「私が司会者になります」などと、自ら役割分担を決めていったのです。そして、自分たちで学びを積み上げていったのです。

中島さん・田中さん「もう私たちは要らないようなものです。つづき楽生の皆さんだけで講座は進むからです」とまで言い切ります。

もはや、賞賛する言葉もありません。



2011年2月3日（木曜日）横浜の天気：晴れ

【つづき楽校・卒業式】

平成22年度 市民活動支援講座“つづき楽校”卒業式の模様をお伝えします。

進行は中島さんです。

卒業式は、午前10時すぎ、田中さんの開式の辞で始まりました。続いて、都筑区地域振興課・新堀課長から挨拶がありました。



《都筑区地域振興課・新堀課長の挨拶》

きょうは卒業おめでとうございます。はじめの頃は皆さん緊張されていましたが、きょうは和やかな顔をされています。これは15回の講座で、情報交換をしたり、お互いにパワーをもらい合ったりした成果だと思います。

講座では、都筑区の良さを互いに学び、これから何をするか、皆さんの



中でエネルギーとして蓄えられたと思います。

きょう卒業して、これからが大事ですので、それぞれの地域で、皆さん自身がより豊かに、そして周りの地域の人たちも豊かになるような活動が生まれると、都筑区の財産になると思いますので、よろしくをお願いします。

中島さんから、きょうの卒業式の次第について説明がありました。また、後ほど“つづき楽校”の講師を代表して挨拶される“ふれあいの丘連合自治会”会長の井上晴彦さんと筆者（山口）を紹介してくださいました。

（写真は田中さん(左)、中島さん(右)です）



《スライドで講座を振り返る》

つづき楽生（卒業生）のお一人、T Jさんの「自分みせ」による“スライドで講座を振り返る”です。昨年（2010年）5月20日の1時間目から、講座の様子がスライドショーによって、次々に映し出されました。その画面を見ながら中島さんが講座を振り返りました。



11月14日の“わいわい横丁”も、数枚の写真で映し出されましたが、筆者（山口）の報告にはない写真がありましたので、ここでご紹介します。



学生さんによる人形劇



すぎなみ大人塾から贈られた色紙

《つづき楽生一人ずつ「思い」を語る》

《卒業証書授与》

いよいよ卒業式のメインです。つづき楽生（卒業生）が1人ずつ、“つづき楽校”へ入学し、学び、活動し、きょうの卒業式を迎えての「思い」を語ります。

つづき楽生の「思い」に応えるかのように、中島さんからも「温かい言葉」が発せられます。そして、中島さんから卒業証書が授与されました。

ここでは、つづき楽生の「思い」と、中島さんのつづき楽生への「温かい言葉」を、一人ずつご紹介します。また、烏澁がましいのですが、筆者のコメントも書かせていただきます。

☆・・・中島さんの言葉

★・・・筆者のコメント

◎I aさん

思わぬところに転がっていく楽しさがあると実感しています。

この講座に参加した理由は、ボランティアに仕切りの高さを感じ、どうしていいかわからず、参加するのに抵抗があったので、“だがしや楽校”のようなフワッとした内容で、「何をやっても良いのだよ」ということで、入りやすかったので参加しました。



入ってみると、講座の内容からだけでなく、普段されている活動をお互いに聞くことができ、それで興味が湧き、地域コーディネーター講座に通ったり、“わいわい横丁”で“月一の会”の人と顔なじみになったり、そこからサポートステーションに行くようになるなど、広がりがすごくありました。それが思わぬ方向に転がっていったということです。“つづき楽校”はその入口になっています。

そうやっている内、これまで地域活動に馴染みがなかった分、「もっとみんなやればいいのに」と思うようになりました。

ただ、私の年代では、子育てで忙しいということもあるのか、参加できるものが限られているとか、みんなが知らないこともあると思います。

でも、もっと地域活動の担い手がほしいというのが現状です。

そこで、自己実現と地域活動が結び付くような環境があれば良いのに・・・というのをこの1年の講座で思いました。

今も地域活動のことを知らない人が多いと思いますので、知らせたり、いっしょに楽しむ環境をつくったりしていけたら良いな～と思いました。

☆I aさんには今回、写真の担当でいろいろ動いていただきました。また、“わいわい横丁”では委員長をしていただき、なにもわからなかった状態から、今ステップを踏まれているのかな、と思います。

★「思わぬ方向に転がっていった」のは、それだけ前向きに動かされたからだと思います。委員長を快く引き受けられたと聞いていますが、そういう姿勢がつながりに結び付いたのです。I aさんから学ぶことはたくさんあります。

◎T eさん

私にとって“つづき楽校”に入学しての1年弱はアツという間に過ぎました。出席できない日もありましたが、皆さんの顔を拝見しながら年月が経ち、皆さんと親しくなれたことが私の財産と思っています。

何よりこの講座で過ごすことができたのは、田中さん・中島さんのご努力の結果かなと思っています。今後もいろんな形でお会いしたいと思います。



☆副委員長をやっていたT eさんは、私が公会堂でスカウトしました。たまたま席が隣りで・・・これも出会いです。

★T eさんの名前は筆者もよく聞いており、副委員長という要職をきちんと務められたと思います。それにしても“つづき楽校”は、年齢に関係なく、若い人も大切にしていました。

◎I eさん

私が“つづき楽校”に参加したのは、いつものように図書館へ行った時、区民活動センターへは一度も足を踏み入れたことがなかったのに、そこで大きなチラシを見て、かわいいイラストがポンポンと載っていて、楽しそうな雰囲気を感じ、「おもしろそうだな」という感じで吸い込まれ、いつの間にか申込書を書いていました。



その申込書には、入学の動機を書く欄がありましたが、そこには「場を活性化させるコミュニケーションを味わいたい。そして、いずれは活性化する場を自分で作り出す側にまわりたい」と書いたと思います。

ただ、申込書を書いた時には“つづき楽校”がどんな講座かもわからなかったのですが、1年間の講座を受けて、場が活性化していくことを肌身で感じました。そして、自分が場をつくり出す側になったら、自分が持っているコミュニティで、空気を明るく、みんなが楽しくなることを感染させていくメッセンジャーになっていけたら良いなと今は考えています。

ですから、この講座は私の思うツボで、ラッキーでした。

“わいわい横丁”というイベントだけではなく、その後の講座では、私の希望で、アイスブレイクを初めてやったのですが、それがきっかけでH yさんから呼んでいただき、サンタの格好をして、初めて会う人の前でアイスブレイクする機会に恵まれました。

また、私も地域コーディネーター養成講座に通ったりして、最初は予想にもしていなかったところに転がりましたが、そこでまた新たな学びを得て、楽しい気持ちになっていますので“つづき楽校”に申し込んで良かったなと思っています。

子育て中の専業主婦ですが、仕事や社会から少し距離を置いたところで見ていると、本来人間とは、凹んでいるところと膨らんでいるところがあるという形をしていると思うのですが、凹んでいるところは「足りないぞ」と言って「埋めるように・埋めなければならない」と言われ、逆に飛び出ているところはトンカチで押されて「平にしなくちゃ」と言われているような世の中だとすごく思うのです。

でも“つづき楽校”で、皆さんといろいろなものをつくり出したり、おしゃべりをしたりしていますと、凹んでいるところがあるからこそ、そこに膨らんでいるものがある人とつながり合うことが出来、弱みがあるからこそ誰かとつながって、みんなで何かをつくり出していくことができると思いました。

だから、自分の子どもに対しても、飛び出ているところ、凹んでいるところは、そのまま大事にして、大きくなってほしいな～と思うようになり、子育てに関して、そういう見方が出来るようになりました。

それで、(凹凸がある人間でも)「そのままで良いのだよ」と受け入れてもらえるような世の中にするために、ささやかですが、自分が地域で出来ることを少しずつやっていけたら良いな～と思っています。それが何なのかは、まだわかりませんが、ここで取り持った縁を活かして、これ

からも続けていければ良いと思っています。本当に楽しかったです。

☆ブログを作ってくれて、“つづき楽校”を発信していただいたり、かわいいお子さんにも来ていただきながら、“わいわい横丁”も時間のある限り手伝ってくださったり、チラシを作ったりしてくださいました。

これから、アイスブレイクが縁で、若い人たちによるグループを立ち上げるようで・・・これは田中さゆりさんの思うツボで・・・その内、田中さんに呼ばれると思いますが、これからもがんばってください。

★凸凹の話はまさに鳥肌モノです。若いおかあさんから、このような話が飛び出すとは・・・筆者は完全に打ちのめされました。こみ上げてくるものを押さえきれないほどでした。

それを“つづき楽校”で学んだとなりますと、“つづき楽校”はなんという講座だったのでしょ。それを学ばれたI eさんも「素晴らしい」いや「凄まじい」と申し上げるしかありません。

I eさんは途轍もないスピーチをされたのです。

◎F tさん

“つづき楽校”には趣味を持って入学しました。入学して良かったと思います。皆さんに温かく迎えていただき、大変嬉しく感じています。“つづき楽校”では最初、何を教えてもらうのかわからなかったのですが、日常生活での接し方や常識を習いました。皆さんにもお世話になりました。また、皆さんが和気あいあいとしていて、とても良い印象を残しました。これから、もしもチャンスがあれば、続けて参加したいと思っています。



☆F tさんには中国のいろんなことを教えてもらいました。朝はハンコを押してくださる役をしていただきました。来ていただけるだけで、F tさんの笑顔で、私たち相談員がホッとする存在でした。

★立場が違ってもいっしょに学ぶことの楽しさ・大切さを“つづき楽校”は、そしてF tさんは「みせ」てくださいました。

◎Nmさん

昨年（2010年）3月、“つづき楽校”募集のチラシを見たところ、その中に「対象者は地域で活動したい人、1年間にわたって参加できる人」となっていました。

私としては、本当は「家でノンビリして、したいことをして、ゆっくりした方が良いかな。果たして受講して地域で活動することができるようになれるのかな」としばらく考えました。また「工作中でもあるし、1ヶ月に2回の講座に出るのは非常に大変」とも思いました。

でも、チラシの内容を見ている内に、すごい魅力ある講座に思われ、「これを逃す手はない。ここであきらめて逃してしまって、来年にもっていったら、きっと後悔するんじゃないか。途中でやめてしまうことがあっても、とにかく始めてみよう」と思って入学しました。



始めの内は、「皆さんと慣れるかな。自分はできるかな」という不安との闘いでしたが、回を重ねていくに従って、皆さんと親しくなれました。また、皆さんの「地域でこんな活動をしています」や「こんな特技があります」という話だったり、夢やいろんなモノの考え方を教わったり、“だがしや楽校”実施に向けて、ワイワイガヤガヤしていく内に、ドンドン楽しくなって、受講日が待ち遠しくなってきました。

「つながり」を合い言葉に“わいわい横丁”を開催しましたが、準備期間が短くて「これで良いのかな」と思いましたが、天気にも恵まれ、地域の方々には楽しんでいただけたと思っています。私たちも楽しませていただきました。

受講して、いっしょに学んだ多くの人たち、講師の方々、保土ヶ谷めぐり隊、すぎなみ大人塾の皆様など、多くの方と知り合うきっかけとなりました。そして、その方々から多くのことを学びました。

多くの人とめぐり会うことで、自分にはない違う面・違うモノの考え方がわかりました。私の視野が広がっていくように思いました。

この1年間を通して、土地を耕してくれて、種をまいて、芽を出してくれました。これを今後私たちは、地域の中で、枯らすことなく、大きな木に育てていけたら良いなと思っています。

☆先日私たちといっしょに保土ヶ谷へ行った時は、保土ヶ谷の住民のように保土ヶ谷めぐり隊のメンバーに入っていました。“わいわい横丁”では“夜のだがしや楽校”を仕切っていただくなど毎回楽しい会を開いていただきました。いつも笑顔でした。そういうNmさんの人柄大好きです。これからも師匠としてよろしくお願いします。

★“つづき楽校”ではNmさんの存在も大きかったと聞いております。ひとつひとつの言葉に重みを感じました。筆者も“だがしや楽校”を通じて視野が広がりました。

◎Fsさん

“つづき楽校”には“都筑をガイドする会”仲間3～4人となんとなく軽い気持ちで入ったのですが、長く続けている内に、つづき楽生の皆さんの良いところがすごくわかり、今まで参加した集まりでは味わえなかった、とても良い感じだったと思います。

“だがしや楽校”もさせていただきましたが、皆さんに助けられて、楽しくできました。

これからも“つづき楽校”が続くようでしたら、また参加させていただきたいと思います。

それから、1ヶ月に2回の講座というのは、私にとってとても良い回数だと思いました。1週間に1回だとちょっと疲れて出られなかったと思います。

☆2時間目の「歩く時間」ではとてもお世話になりました。Fsさんの人柄がガイドに出ていて、皆さん和気あいあいとして歩くことができたことを思い出します。“わいわい横丁”で植木を売られていましたが、その植木を“わいわい横丁”が終わった後、センターにプレゼントしていただきました。今も元気に育っています。

★“わいわい横丁”で筆者が1番目に取材したおみせで植木を出されていたのが印象に残っています。「1ヶ月に2回の講座というのはとても良い回数」と語られましたが、“だがしや楽校”を



テーマにした年間講座を考える時、非常に重要なコメントであります。

◎Y aさん

何の考えもないままに気楽に入学させていただきました。

1時間目の松田先生のお話はとても親しみやすく楽しいスタートでした。

人の話を聞くのは楽しくて大好きですが、今まで人前で自分の考えを話す機会のない生活を送ってきましたので、3時間目の自己紹介では、つづき楽生の方々の堂々とお話している姿を見て、「場違いのところに来てしまったのではないか」とちょっと後悔しました。

でも、中島さん・田中さんのとても温かく上手なリードに元気付けられました。

交流会での杉並の方々のあたたかなもてなし、また松田先生とお会いできたことで、とても楽しい1日を過ごすことができました。

“わいわい横丁”に向けての回を重ねての話し合いでは、いろいろなアイデアを出されるつづき楽生の方々の素晴らしさに私は感心しました。

“わいわい横丁”では「何をどうしたら良いのか。これとって出来ることもなし」と悩みましたが、前に作ったことがある新聞紙で作るブローチ、アクリル糸のエコタワシを出すことにしました。

当日は天気に恵まれ大成功。ただほかの方々のおみせを見る余裕がなかったのが残念でした。

自己紹介でお話した新しい出会いは達成できました。

“つづき楽校”で学んだことをムダにせず活かしていけたらと思います。

年齢・性別を越え、素晴らしいつづき楽生の方々といっしょに学べたことに感謝しています。

いつまでも“つづき楽校”についていきます。



☆新聞のブローチはとても素敵で“わいわい横丁”が始まる前から田中さんも買いました。そういう自分の好きなモノとか素敵だなと思うモノを出すことでみんな楽しくなります。オレンジピールも美味しかったです。

★Y aさんも“わいわい横丁”で筆者が1番目に取材したおみせにおられた方です。良かったことだけでなく、「ほかの方々のおみせを見る余裕がなかった」という残念だったことも語られました。このような思いがあるから、更なる学びや活動につながります。貴重なスピーチでした。

◎M nさん

昨年体調を崩してしまい、“つづき楽校”に出席できたのは、ほぼ半分でした。

それで、“わいわい横丁”開催の1回前から出席できるようになりましたが、その時は、子どもたちが長い間学校を休んだ後に学校へ行く時のような不安・戸惑い・後悔の思いで参加しました。つづき楽生の皆さんは、着々と自分の思いや自分のやりたいことをしっかり持って活動している姿で、私は圧倒されてしまったことを思い出します。



その時に紙芝居グループの方に声をかけたところ、「どうぞ」という言葉がどれだけ私に励みになったことでしょうか。「あなたもやっていいのよ」と言ってくださったこと、それが私にとっては一番の出会いであり、“つづき楽校”で学ぶことができた人の温かさであり、仲間に入れてくださった「思いやり」を痛切に感じることができました。

“つづき楽校”で学ぶことができたのは、一人ひとりが持っているパワーであり、思いであり、「つながり」を大事にしていることです。

そして、この都筑区には、いろんなことを知っている・やっている・パワーを持っている人が、とてもたくさんいることを感じさせられる楽校だったと思います。

皆さんといっしょに学ばせていただいたことで地域デビューの扉がちょっと開けたかな、と実感しています。

今までとは違った形で地域の人たちともつながり、それは遠い世界とか、私には出来ない世界ではなく、もしかしたら足元に転がっている「つながり」であると実感しました。

最初に思い描いたことが今回は何もできなかつたのですが、皆さんから学ばせてもらったことで、半歩ぐらいは前進出来る自分を見つけたかなと思っています。

☆風車をN kさんが作っている時、M nさんに参加していただけたということで、N kさんすごく喜んでいました。そして、人出が少ない中、M sさんといっしょに風車を作ってくださいました。当日は、私たちが気付かないところをサポートしてくださいました。これからますます元気になり、これからも“つづき楽校”のメンバーとしてつながって行ってください。

★感動的なお話でした。人の温かさと思いやり。これだけでも“つづき楽校”は大成功です。その成功につなげたのはM nさんです。誇りに思っていて良いと思います。

“つづき楽校”は休みが多い人でも、学ぼうという思いがあれば、安心して参加できる講座でした。そして、休みが多かったことで体験できた学びもありました。

足元に転がっている「つながり」も非常に大切なことです。それを学ばれただけでも凄いことです。

◎N kさん

すでに“つづき楽校”では、やりながら実は物凄いものが生まれているという実感がありますので、私の中だけで見えている部分しか描いていませんが、どうしても形に表したくて、これを作りました。

宇宙にして描いたのはI aさんのアイデアです。I aさんは「はじめ私たちつづき楽生は

宇宙のチリ（個）みたいになっていましたが、“つづき楽校”を受講することによって、見えない渦に巻き込まれていき、それが太陽系・銀河系になっていくようなイメージがある」と言われたので、それを描いてみました。



こちらの絵（前ページ写真）は、1年間の講座を通じて、つづき楽生が成長した様子を描いたものです。星印は団体を表し、ピンクの丸は行った活動を表します。

例えば、“つづき楽校”と“都筑をガイドする会”がいっしょになったことで、私がガイドの楽しさを知り、これを若い子連れのおかあさんたちにも伝えたいと思い、田中さんやMyさんにお話したところ、“都筑をガイドする会”と“ポポラ”がいっしょになり、（12月9日）茅ヶ崎城址や正覚寺を散歩するという会を実施しました。

“まんまるプレイパーク”では“チャレンジつづき”やMyさんが来てくださり、紙芝居をやってくださいました。そして「定期的にやりたいよね」という話になり、来る2月14日には“きりたんぼ鍋”を行います。ほかにも、工作教室を行いました。また、“牛久保公園プレイパーク”も大盛況でした。このように、私の活動の中でも“つづき楽校”での出会いで、物凄い大きな広がりがありました。

さらに、“チャレンジつづき”の方は“つづき楽校”での出会いを全部巻き込んで、12月21日“ひとあしお先のクリスマス”を開きましたが、そこには地元のデイサービスや“えだきんパーク商店街”、地域の赤ちゃん会から学童と、赤ちゃんからお年寄りまで、いろんな世代の方100人くらいが集まりました。

それから、先程のI eさんたちのアイスブレイクに、Hyさんが声をかけてくださったので、社協の老人会と子供会が合流する楽しい会（ラベンダーの会）が、12月に生まれました。

ネットカフェのZ sさんからお聞きしたことですが、ネットカフェに“飛び出せ園バス隊”が来たり、講演会が次の講演会につながったりしました。これも、Z sさんが出会いをすぐに形にされているからです。3月6日には“6年生を送る会”が開かれます。

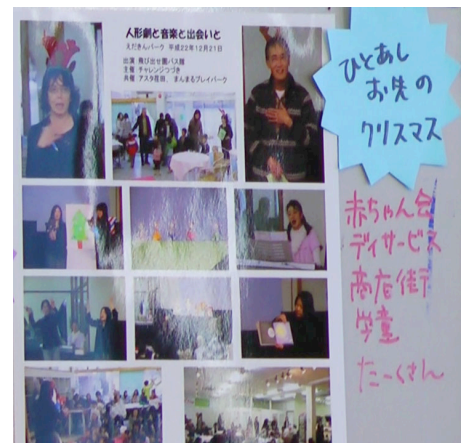
Imさんはいろいろな方を知っていて、つづき楽生に会わせようと、紙芝居の講習会を行ったり、おもちゃの講習会を行ったりしました。この講習会から大学生のグループが生まれました。

“わいわい横丁”からは“だがしや楽校全国ネットワーク”というつながりが生まれました。

これに、先程のI eさんの話を加えたいなと思っています。“月一の会”や“地域交流会”に参加したことも加えます。

ほかにも、私の知らないつながりがいっぱいあると思いますので、皆さんからお聞きして加えていきます。そして、出来上がったら、中島さん・田中さんに感謝の気持ちとして送りたいと思っています。

これは素晴らしい活動です。ここに貼っている写真には、いずれもお年寄りの方から子どもまで写っています。私が公園で活動していて、一番居心地が良いのは、I eさんの凸凹の話ではあ



りませんが、世代を越え、立場を越えて、同じ場所に人が居ることです。

新しいまちでは、元気に活動される人はいっぱい居るのでしょうか、同じ趣味で集まるとか、同じ年代で集まることが多いので、斜めの関係をつくるのが“つづき楽校”でも課題になりました。でも、それを意図も簡単に、あちこちでやっているのをみますと、“つづき楽校”って物凄い会だと思います。ですので、これからも絶対に皆さんといっしょにやりたいな~と思います。



☆N kさんはワクワクの伝道師です。本当に思い付くのです。また、とても上手に人を巻き込んでいきます。そして、巻き込んだ人をとても大事にします。だから、私たちはいつも安心して西田さんを紹介します。

それから、とても上手なポスターとチラシを作ってくださいました。それも気軽な感じで引き受けてくださいましたので、私たちはとても助かりました。

先日は山口さん（筆者のことです）も“まんまるプレイパーク”デビューを果たしました。“まんまるプレイパーク”があるから“つづき楽校”があるのかなと思っています。これからもワクワクを広めていってください。

★筆者が1月31日、都筑区民活動センターで偶然にも拝見することができたN kさんの図画が、こんなに素晴らしい絵というか作品になりました。もはや賞賛する言葉もありません。

N kさんについては、筆者もお世話になりっぱなしで、何も申し上げることはありません。あるのは感謝の言葉だけです。本当にありがとうございました。これからもよろしく願います。

繰り返しますが、この絵はN kさんが、勝手に、つまり自発的に作られたものです。“まんまるプレイパーク”も最高の空間です。

◎M sさん

中島さん・田中さんに御礼を言いたいと思います。田中さんは非常にわかりやすく、熱が入ると大阪弁が入ります。中島さんは衣装ですね。私たちが“つづき楽校”をやっていく上でお二人は大きな支えになっていました。そして、私たちを引っ張ってもらいました。

私自身は定年退職で、やることがなくなっていたある日、散歩がてらに公園に寄ったら、1日ベンチに座って新聞を読んでいるおじさんがいて、自分はそうはなりたくないと思ったのが、入学の動機です。

何をやっても良かったのですが、“つづき楽校”に入れていただき、いろんな方、自分がやりたいことを持っている方にお会いし、勇気付けられました。

こうやってつづき楽生の皆さんをみますと、女の人が多い、男は少ないと思っています。特に若い男性がいませんので、これが課題かなと思っています。

ただ、せっかくここまで皆さんとやってきたし、これからもある意味で続けられていけばと思いますが、それにはやっぱり自分たちで続けていく必要があるのではないかと思います。

大きなフェスティバルはたくさんあります。でも、私の考えでは、もう少し日常的な、ある程度コンパクトで良いので、また2ヶ月に1回でも良いので、小さなものを続けていくことで、大



きなものと私たちの運動との差別化というか、どこにポイントを出すかという考えを私は持っています。

そういう意味で、皆さんがまた集まれるような場づくりを早急にしなければいけないと思っています。もちろん意見を異にする人もおられるかもしれませんが、それは仕方ないことだと思いますが、つづき楽生の皆さんで続けることができるなら、その場づくりを、できれば今日の内に、組織作りではありませんが、代表を決めて、ある程度手足を集めるくらいのことは、ここで出来れば、と思っています。

☆Msさんは一見怖そうで、実はとても優しく、自分の意見もありますが、若い人の意見も取り入れて、「良いよね」と言ってサポートしてくださいます。

それと、自分ができる範囲内でやろうということで、私たちが「助けて」と言いますと、すぐに来てくださり、手を貸してくださるMsさんに、いつも甘えていました。これからも“つづき楽校”を支えていただきたいと思います。

★“わいわい横丁”での学校教育の話は今でも印象に残っています。本来“だがしや楽校”が目指すものは、日常の中に“だがしや楽校”に見られるような風景を再現することであり、Msさんの話は筆者も共感するのであります。

◎Isさん

横浜市民ではないのに“つづき楽校”に入れていただき、ありがとうございました。

松田先生の駄菓子屋楽校の本を読み、善行（神奈川県藤沢市）の“だがしや楽校”にお邪魔して、そこで昨年（2010年）3月、中島さんと出会い、“つづき楽校”を知り、5月、初めてセンター南駅を降りて「都筑ってこういうところなんだ」と感じてから早一年経ちました。

「すごく居心地が良いところだったな〜」というのが“つづき楽校”の良さだと思います。まったく関係のない人同士、年配の方から若い方まで、温かく迎えていただいたかなと思っています。

自分が“つづき楽校”で学んだ点は、3つあります。

1点目は、「“だがしや楽校”は『自分みせ』と松田先生はおっしゃっていました。また、皆さんも『自分みせ』で何か見せなければいけない」とおっしゃっていました。でも、私の目から見ますと、皆さんは必ず光るところをお持ちで、それを自分のパーソナリティとしてうまく出せていたと“わいわい横丁”をやった時に思いました。それで、自分は「何もない」じゃなくて「何かある」と思って生きていきたいです。

2点目は、“つづき楽校”には若い方と年配の方がいらっしゃいました。その中で若い方は将来の都筑を背負っていく人材として凄いことだと思っています。それから、私より10～20歳年上の方も多いですが、私は10年後20年後、果たして皆さんのように生き生きとやっているだろうかと凄く考えさせられました。また、60歳を過ぎて自分が地域に戻った時、どんな地域になっているのかを凄く考えさせられましたので、都筑に負けないよう藤沢も良いところになりたいなと思っています。

3点目は、私の基本にあるのは“笑顔”ですが、ここに来ますと、つづき楽生の皆さん、中



島さん・田中さん、職員の方皆さんが必ず笑顔で迎えていただいたのが凄く嬉しかったです。私は藤沢市の職員ですが、いつか笑顔があふれる仕事ができるよう、ここでの学びを活かして、今後もがんばっていきたいと思います。

☆ I s さんは、ず〜っと写真を撮ってくれました。藤沢市からわざわざ来ていただくということ、また大学の学生としてもお忙しいのですが、その中月2回来ていただきました。これから藤沢の良い面を私たちに伝えていただき、都筑の良さを藤沢に伝えていただける伝書鳩のような方になっていただければ、ここが終わりではなく、つながりは続いていきます。

★藤沢・善行で“だがしや楽校”が感染した背景には、筆者も関係していますので、I s さんの“つづき楽校”参加は、筆者にとっても感慨深いものがあります。“つづき楽校”に申し込んだ I s さん、I s さんを受け入れられた“つづき楽校”、両者ともすごいです。

◎ T y さん

“つづき楽校”は Z s さんから勧められて、何も考えないで出席しました。

一番イヤだったのは自己紹介です。自己紹介で皆さんは、一人ひとりしっかりと筋道を持って自分の考え方をハッキリお話されました。それで、こんなところに来るのは「イヤだ」と思いました。

でも、その次にうかがった時、中島さん・田中さんは「こんにちは」と迎えてくださり、皆さんからも「こんにちは」と前からつながりを持っていただいていたのでした。それでもまだ「次は行きたくない」と自分では思ったのですが、ここに来ると、なんとなくホワーとした雰囲気があって、その魅力に惹かれていったのです。

“わいわい横丁”の時も、私が「何もできない」と言ったら、S k さんは親切に「できないことないわよ。なんでもできるわよ」と励ましていただいたことで、「そうなのか」と思って自分にも言い聞かせたのです。

それで出来上がったものをみると、ほとんど S k さんに作っていただきましたが、なるほど売れるような感じの品物ができました。

皆さんは人との触れ合いを大切になさっているのか、私を仲間に入れていただき、本当にありがたいと思っています。

☆自己紹介の時は「大嫌いなんです」と言いながら、とても上手にされました。ビックリしました。長いお付き合いの Z s さんが一番ビックリされていると思います。

語ることが多い講座だったので、仲間という意識ですね。今も素晴らしいスピーチでした。感動しました。これからもつながってってください。

★“つづき楽校”は、みんなが先生であり、みんなが生徒であることをお話していただきました。つまり、T y さんも先生になっていたのです。良い話をお聞きすることができました。これも、T y さんが参加されたからです。“つづき楽校”に参加することの大きさをお伝えいただきました。



◎Z sさん

よくぞ“つづき楽校”に誘っていただきありがとうございました。

ここに集まった皆さんは、すでに活動されている方をはじめ、いろんな方がいらっしゃいました。先程のN kさんの絵を見ますと、すごいパワーを持った人たちで、それも自然に湧き出る力を持っています。

その力に圧倒されて私は、いろんな用事がある中、それを退けて、毎月2回の“つづき楽校”来てしまいました。

“つづき楽校”では新しい出会いもありました。若い皆さんたちのパワーも感じました。この出会いは、絶対ムダにはできないと思いました。

人間と人間との出会いというのは微妙なものがあって、なんとなく接着剤みたいにくっつく人もいれば、どんなことをしても離れていく人はいると思います。

ただ、この“つづき楽校”で1年弱ご一緒した方というのは、きっと何かを求めて、求めれば何かが見えてくる人だと思いますが、そのことで、私が腑抜け状態になった時も「そうじゃないよ」と教えていただいたことが、“つづき楽校”ではいっぱいありました。

先程、M sさんの力強いお話がありましたが、せっかくここに集まった力を形にしていかなければ意味がないと思いますので、きょうからでも立ち上がって続けていきましょう。皆さんの今の気持ちを消さないで続けていけたら、すごく嬉しいな～と思っています。

私は私なりに、それこそ凸凹の出過ぎかもしれませんが、時々頭を叩かれながらも、時々は出なければならぬと思いつつ、やっています。こんな私ですが、これからもよろしく願います。

☆Z sさんが居るだけで安心してグループワークができました。いつも若い人や初めての人の意見を取り入れてくださいました。“つづき楽校”では皆さんが講師役をされた時もあったと思いますが、その時もZ sさんのような方が居てくださったことで、いろんなやり方・考え方があることを学ぶことができ、いつも笑顔でいることができました。これからは“つづき楽校”のデビューだと思っていますので、よろしく願います。

★“わいわい横丁”では、都筑の野菜をタップリ使ったお弁当を作られました。

Z sさんのこともよくお聞きしていたのですが、視野の広さとコーディネート力の高さには筆者もおおいに学ばなければならないと思います。出会いとかコミュニケーションと言いますが、実はデリケートでもあるのです。それを理解しているかで、「つながり」も違ってきます。そのことをZ sさんは語られました

◎N hさん

はじめ何回か授業を受けて「“だがしや楽校”って何だろう？」というのが感想でした。まして松田先生から「全国的にうまくいっていますよ」と言われても「そんな短期間で我々にできるのかな？」というのが一番の疑問でした。

私は、5年間から老人ホームの慰問をしており、お年寄りとのいろんな「つながり」はあったのですが、この“つづき楽校”では若い人からお年寄りまで、また“わいわい横丁”ではお子さんからお年寄りまでの各年代層がいっしょになったということで大変良



い経験をさせてもらいました。杉並でも人の輪を感じました。

皆さんとお会いできたのが一番の財産です。この間も、お風呂の中でT j さんにお会いして、裸のお付き合いをさせていただきました。

これからも皆さんと長いお付き合いをしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

☆Nhさんは声が素敵です。これからもその美声を皆さんに伝えていただければと思います。

本当に優しい方で、忙しいにもかかわらず月2回の講座に来ていただきました。これからがスタートなので、よろしくお願いします。

★“わいわい横丁”での紙芝居“黄金バット”は今でも印象に残っています。

「“だがしや楽校”って何だろう？」と思うのが普通であり、そこから“わいわい横丁”を開き、きょうの卒業式を迎えた“つづき楽校”とNhさんをはじめとするつづき楽生の皆さんは、とにかくすごいことをやってのけたのです。

◎S s さん

家がすごく忙しくなり、なかなか参加できなくなってしまったのですが、その代わり“駄菓子屋楽校”輪読版・人間関係論の本をお借りして読ませていただきました。その本を読むことで、何が駄菓子屋なのか理解できたような気がします。

なおかつ、実践として“わいわい横丁”に参加したことで、つながりや地域が、より具体的にわかってきたように思います。

あともう1つ良かったと思うのは、皆さんと協力してPRを一緒にできたことや、多世代交流で意見交換する機会があり、いろんな発想・新しい発見を得たりしたことです。

私としては、“つづき楽校”にはプレッシャーがあったのですが、講座を終えてみて、自分自身が非常に変わったような気がしています。

このような機会をくださったのも、中島さん・田中さんや地域振興課の人たちのおかげと思っています。この経験を今後少しでも役に立てれば良いのかなと思っています。

皆さんといっしょに歩むことができたということに感謝をいたします。



☆“わいわい横丁”では、子どもたちが生き生きとして、お花を作っていて、それを丁寧にご指導されていたのが印象的でした。

家庭の事情でお忙しい中、“つづき楽校”に来ていただきました。この“つづき楽校”の良さは、お休みをしても、次回来やすい雰囲気があることです。皆さんがニコニコして優しい雰囲気を持っているので、入りやすかったことです。それでも、休んだ後はプレッシャーがあったと思いますが、来ていただいたこと、そして今ここに立っていただいていることが、とても嬉しいです。

★“わいわい横丁”での駄菓子をイメージしたオーナメントが印象に残っています。お休みされる中、駄菓子屋楽校の本を読まれるなどの学ぶ姿勢には脱帽しました。

◎H y さん

Nkさんがおっしゃっているように“つづき楽校”には非常に強いスキルを持った方が集まり

ました。そんなつづき楽生を、おかあさんのように接し、「外に出てはいけません」と言って横道に逸れないように進めていただいたのが中島さん・田中さんのお二方です。“つづき楽校”という幹の中でのお二方の力というのは「すごいな～」と思いました。



“つづき楽校”を幹にして、枝になる活動が生まれています。青葉区でも多世代交流をやろうとしています。元々は同じ区でしたので、区をまたがって、枝葉をもっと伸ばして、やっていけば良いのかなと思っています。

Nkさんの紹介で昨日FMサルース（青葉区のコミュニティFM）に出演しましたが、メディアを使ってもっとアピールできれば良いのかな～と思いました。メディアを活用すれば、もっと広がると思います。

旗振りしか知らないおじいちゃんだったのですが、いろんな方々とお知り合いになって、良い1年過ごすことができました。

☆ラジオでは“つづき楽校”の宣伝もしていただきました。私たちが弱かったのはPRでした。

“つづき楽校”を外に出していくことが今回は弱かったと思っていますが、これもまた勉強ということで、私たちも学習していきます。

Hyさんにはフットワークの良さで、伝道師としてがんばっていただきたいと思います。

★“わいわい横丁”では、開会式で司会をされるなど、皆さんをリードされました。また、お茶とおしゃべりのおもてなしのおみせ“よってらっしゃい”も印象に残っています。お茶とおしゃべりで“だがしや楽校”では、おみせになるのです。これぞ本当の「自分みせ」です。

スピーチでは、「伝える」ことの大切さを語っていただきました。

◎Myさん

私も何も考えないで“つづき楽校”に入りましたので、「皆さんと大差ないな～」というのが第一印象です。

講座の2/3までは「皆目わからない。内容がつかめない」状態でした。「なんじゃ、これは！」と思いました。「何をどうしろ」というのか。



自分は何も持っていませんので、何を出したら『自分みせ』になるのかな、というジレンマがありました。Nkさんのおかげで、いろんなことをいっしょに考えることができ、クモの糸ではありませんが、自分でも思いがけないくらい広がりを感じられました。これがひょっとして私の入口かな～と思いました。

若い方たちといっしょに交じって活動（新聞社へのアタック）したことで、新たなやり方を学ぶことができました。

また、若い人たちの考えを聞いて、若い人の考え方が少しは見えてきましたので、これまで意見が合わなかった娘たちの見方に近づくことができたのではないかという私自身の中にもプラスがありました。

田中さん・中島さんのおかげで、なんとなく引っ張られてきた部分が多いのですが、今までの自分では考えられない、またこれまで経験できなかったことが“つづき楽校”を通して経験できたことが私にとってプラスだったな～と思っています。

これからは、自分の地域の中で、ちょっと手を出して、「なんかできないかな」と思っていると

ころです。あとは皆さんと同じ思いです。

☆Myさんも“都筑をガイドする会”をお手伝いいただきました。

とても勉強熱心な方で、いろんなことをひとつひとつ勉強されていると感じました。

紙芝居に出会った、そこから新たな世界が生まれてきていると思います。“わいわい横丁”では子どもたちがすごく喜んでいました。

これからは紙芝居を“まんまるプレイパーク”でされるそうで、その時は私たちにも教えてください。皆さんにもお伝えします。

これからも“つづき楽校”でがんばってください。

★Nsさんのところでも申し上げましたが、「なんじゃ、これは！」と思うのが普通です。でも、そこから学びにつながったには、Myさんをはじめ、つづき楽生の皆さんが、先生であり生徒であったからです。これは本当にすごいことなのです。実は本当の先生は身近にいるのです。これも、おおいに外へ発信すべき大きな成果です。

◎Tkさん

楽しみにしていた“わいわい横丁”に出られないことが決まってから「なんか邪魔な存在かな」と思いながら、それでも黙って参加させていただきました。それでも良いことは、カヤの外に出たことで、意見を言っはみんなを引っ張っていく人、わからない疑問を掘り下げの人というように、皆様がよく見えました。また、いろんな動きがよく見えて、自分自身は楽しかったです。



さて、Tjさんの“雨男通信”の11月の記事を読みました。それで気が付いたのは、今までの仕事とは関係ないことをやろうと思って、あがいていた自分です。それで、突っ張らずに、自分がやってきた仕事を活かし、子どもたちが通える場所で、学校の先生でもない、保健室の先生でもない、子どもたちに付き添ってあげられるような人がボランティアで行ったら、そこに通える子がひとりでも増えるのではないかと考えるようになりました。これから、そんなことを考えてやっていきたいと思います。

Tjさん、“雨男通信”どうもありがとうございました。

☆Tkさんには、この“つづき楽校”の幟旗を縫っていただきました。

「当日来られないけど何かすることありませんか」言ってくくださった際「幟旗は誰が縫うの」と気が付かれました。

Tkさんは自分ができることを探し、実際にやってくくださいました。

“わいわい横丁”は本当に残念だったのですが、これが羽ばたいて良いシンボルになったと思います。

2月14日には“きりたんぼ鍋”をしていただきます。すごく楽しみにしています。

“つづき楽校”を通して、自分がやろうと思ったことが見つかって、すごく良かったな～と思っています。これからも、それだけでなく“つづき楽校”にも来ていただき、新たな活動のお話など、皆さんに伝える



ことがたくさんあると思いますので、伝道師となって付き合っていたいただきたいと思います。

★“わいわい横丁”に参加できなかったからこそその学びが体験できたのも“つづき楽校”の素晴らしさです。その学びを实践されたTkさんも素晴らしいです。

◎T jさん

僕は“つづき楽校”に通って本当に良かったな～と思います。毎回出掛けると誰かに会えます。

まちは友だちがいなかったのが寂しかった。でも、こうやって笑顔で受け入れてくださり、本当にありがとうございます。



☆T jさんは、きょうのスライドもそうですが、「何かできることある」「何かやろうか」と常に聞いてくれました。例えば、“つづき楽校”でチラシができますと、自らあちこちにチラシを持っていってくれました。このように、いつも“つづき楽校”では、自分ができる仕事を探しながら付き合ってくださいました。

それと、顔見知りですごくできて「T jさんに会ったよ」という報告がすぐに来ます。

そういう「つながり」ができたこと、また私たちがわからない障がいの部分では、言葉ではなく、いろんなものから伝えていただきました。

それで、T jさんは次のステップができました。

“雨男通信”も最初の頃と比べると、すごく心に響くものが増えてきたように思います。

私たちが抜けている部分を補っていただき、完成していただきたいと思います。

この卒業式の感想を書いていただき、残せたら良いな～と思います。

これからも“つづき楽校”でがんばってください。

★“つづき楽校”初日（5月20日）の取材での「人に頼る・甘えることはしない。住み良い地域をつくるには、自ら動くこと」と言い切られたT jさんのことが今でも忘れられません。きょうの映像も見事でした。先日（1月31日）は“まんまるプレイパーク”でお会いしています。

◎Imさん

きょうが最後と思うと、複雑な感じがします。

早いもので、この1年間の中で、新たな出会いがいっぱいありましたし、新たな発見がいっぱいありました。そして新たな感動もいっぱいいただきました。自分の一生の宝物がまたひとつ加わった感じがします。感謝でいっぱいです。



“つづき楽校”で学んだことはたくさんありますが、その中から2つお話ししたいと思います。

1つは枠にとらわれないとこんなに素晴らしいことができると思ったことです。会社人間でしたから、何をやるにも、まずはガシッと枠を決めて、それに基づいて前へ進めてきました。ところが“つづき楽校”はそうではありません。パワーっとした中から、皆さんがそれぞれ持っている個性あるパワーがそこに集まってひとつのものをつくっていく。それが初めての経験と思うほど、心にクッときました。

もう1つは、出会いです。私自身、出会いはこれまでもたくさんありました。特に定年後は、

福祉分野に入ったこともあり、また自分自身は人材コーディネーターとして、皆さんと皆さんを接着剤にして何かをつくり上げることがしたかったので、出会いを大切にしていました。

しかし、その出会いは、ともすれば量を追い求めていたような気がしました。でも“つづき楽校”に入学させていただいてから、出会いは、量も大切だけど、質が大切であることをすごく感じました。

この2つが自分では物凄く自分自身にとって、大きな学びだったと思っています。

本番の“わいわい横丁”で最も印象に残っているのは、私たちのお話広場的なおみせ（元手はかかっています。元手は口だけです）で、最初に前に座っていただいた年配の女性2人です。これで“わいわい横丁”が始まったと実感しました。それが、先程のT jさんのスライドに映っていて（右の写真）、ビックリしました。



“つづき楽校”では、つづき楽生の皆さんはもちろんですが、田中さん・中島さんの情熱も素晴らしいです。お二人は、普段笑顔ですが、講座では怒り出すこともありましたし、泣き出したこともありました。凄い情熱です。

“つづき楽校”は、これからが大事だということですが、前回も申し上げたように、都筑区には、ロードレースやウォークラリーなどのようなビッグイベントがたくさんあると思います。そういうイベントは、数で残るでしょう。しかし、それは年1回やって「ハイ、さようなら」という感じだと思います。

これに対して、先程N kさんが説明されたような地道な活動こそが、都筑をさらにさらに進化させるのではないかと信じています。地道な活動を続けていくことで、物凄い「つながり」ができていき、これこそが地域を活性化させる最も大きなパワーになると思います。

本当にこの1年間ありがとうございます。

これから皆さんといっしょにもっともっと進化させていきたいと思っています。心で、精神力で、つなげていくことができれば良いな～と思います。素晴らしい「つながり」でした。

☆私たち2人は、I mさんに1から教わり、育てられた相談員です。“つづき楽校”をやっていると思ったのは、I mさんの「人を大事にしよう」とか「地域は・・・」と常に私たちに語ってくださったからです。

I mさんは、皆勤です。“つづき楽校”が素晴らしい講座になっていく過程をず～っと見ていてくださいました。また、私たちを「大丈夫緊張しないで・・・」と常にサポートしてくださいました。私自身、味方がいることを常に感じていましたので、成功することができたと思っています。

I mさんの熱い思いを、若い人や地域デビューされる方に伝えていただければと思います。

★ “わいわい横丁”では、あちこちに出没しては多くの人と交流を図っていたI mさんは「きょうは大規模な“つづき楽校”ですが、次は小さな“つづき楽校”を開きたいです」とも語っていたのが印象に残っています。

きょうのスピーチでも熱く語っていただきました。I mさんがおっしゃるように、すでに次の“つづき楽校”が動き始めているのです。

◎Skさん

これから皆さんに提案します。卒業式なので、卒業にはお別れの言葉が外せないです。そこで、私がこれから言うことに、皆さんが声を出して反応していただきたいのです。

どんなことかという、皆さんの話をうかがっていて、共通することは、この会がとても良かったという思いや、皆さんの出会いに感謝する思いや、いろいろなものがあつたと思うのです。

それで、たくさんの「ありがとう」が聞こえてきました。ですから、出会いに「ありがとう」というのがすごくあつたと思います。

皆さんには、このような場を使って、共有できる時間があつて、そして思いをひとつに、何かをやっつけていこうという思いがありました。

本当はみんなにはそれぞれ、生活があり、個人的ないろいろな理由もあります。でも、自分たちの大事な時間の一部をここに割いて、共有できて、共に何かをまとめていこうという「ありがとう」があつたと思います。

ですから私が「出会ってくださり」と言ったら、皆さんは皆さんのことを思って「ありがとうございました」と声を出していただきたいと思うのです。

そしてもうひとつ、私が「同じ目的で共有を持てたことを」と言ったら「ありがとうございました」とまた心を込めて言ってください。その時は「自分たちは良かった」という思いで心をひとつにして言っていたいただきたいのです。

私のことをお話しします。私は、学校を卒業して、すぐ就職して、太陽に向かってドンドン走り続けた思いがあります。何年も・何年も光に向かって走り続けてきた自分。

やがて、そろそろ自分の身の回りのことを、手堅く見つめ直してみようかなと思い、体調のこともあり、そして退職しました。

その時に、上ばかり見つめて、上に伸びることしか考えていなかった自分に気づき、ハタと考え、「都筑に自分の心はあつたかな」と思った時があつたのです。

それまでの自分は、都筑にちょっぴり根を張って、でも上にドンドン伸びている自分ばかりでしたが、その時から「これからは上を目指さなくても良いのだ。都筑の地を見つめて、地に根を張ろう。これからはそれだな」と思ったのが今の私です。

皆さん、発想の転換です。1年間やったことで、この“つづき楽校”の枝が広がり、花が咲き、実が出来、その実がこぼれ落ちてきています。

その時にもう1回原点に戻って、都筑の地に根ざす活動をしていけば、自ずと幹は太くなり、自ずと枝をもっと広げ、花が咲き、実がこぼれていくと思います。これからはそういう活動を目指して皆さんでやっつけていければ良いのかなと思いました。

☆Skさんはキャッチコピーを作ってくださいなのですが、きょうもお話を聞いて、人の心に響く言葉をいつもくれているという気がします。これからの活動に期待しています。Skさんなら何かやってくれそうな気がします。

ここが最初の一步かもしれませんが、「根を張る」とおっしゃったので、私たちはこれから根の張り方を楽しみに見ていきます。

そこでサポートができるようなことがあつたら言ってください。私たちも全力でサポートした



いとしていきたいと思います。

★ひとつひとつの言葉を噛み締めながらお話されました。それにしても、上しか見ていなかった生き方から、地を見つめる生き方への転換。すごいことです。そういうメッセンジャーとしての「自分みせ」を感じるS kさんのスピーチでした。

卒業式では以上 22 名の方に卒業証書が授与されました。

ほかに卒業式に出席できなかったA zさんには、卒業式後に開かれた謝恩会の席で卒業証書が授与されましたので、ここで、その時のA zさんのスピーチと中島さんの言葉をご紹介します。

◎A zさん

謝恩会の冒頭、Z sさんから絆とかいろんな話がありました。

ある新聞（全国紙）の朝刊で、年始めから“孤”をテーマに約1ヶ月間掲載されていたのを興味深く読みました。そこには、日本各地でのひとりで亡くなっている事例など、孤独に関することが掲載されていました。

私たち“つづき楽校”は約1年間、いろんなことを学びながら、きょうを境に、また新たなスタートを切るわけですが、“絆”ということがやっと私もこの年になって理解できたかなと思います。

今までの現役の時代は、“絆”なんていうことはそっちのけで、自分自身の仕事を一生懸命していたのですが、おかげさまで、地域社会になぜかうまくソフトランディングできて、こういう場にもいられることを非常に幸せに思っています。

これからもまた、皆さんといっしょにいろんな活動をしていきたいと思います。

どうしても縁の下の力持ち的になりそうですが、よろしくお願いします。

☆A zさんは“わいわい横丁”の準備の時に、「縁の下の力持ちをやります。私にまかせてください」という感じだったのです。それが私たちには力強く思いました。

当日は“わいわい横丁”の本部で一生懸命対応してくださいました。それは十分すぎるほどの仕事ぶりでした。

講座の中では、たくさんは語らなくても、ここを伝えたいというところは必ず良いアドバイスをくださいました。また、皆さんの表情や様子を見ながらコメント・アドバイスを入れてくださったのが、すごく印象的でした。これからもよろしくお願いします。

★“縁の下の力持ち”と言いますが、なぜか筆者も印象に残っているのがA zさんです。本当の“縁の下の力持ち”とは、普通に見ていれば気付かない存在かもしれませんが、実は大きな存在なのです。目先の利益しか見えない人に“縁の下の力持ち”は見えません。駄菓子屋とは目先の利益ではありません。「自分みせ」によって、お店に来た子どもたちやお客さんとのコミュニケーションを大切にします。

《講師代表あいさつ》

“つづき楽校”に関わった講師を代表して“ふれあいの丘連合自治会”会長の井上晴彦さん（高山自治会）が挨拶されました。

“ふれあいの丘連合自治会”とは、見花山自治会・富士見が丘自治会・高山自治会・市営つづきが丘住宅自治会・エステスクエア自治会・タンタタウン自治会の6自治会によって構成される都筑区では14番目の連合自治会です。横浜市営地下鉄グリーンラインの“都筑ふれあいの丘駅”が開設されたのを機に、川和地区連合町内会から“都筑ふれあいの丘駅”に近い6自治会が分かれ、2008年に設立した自治会です。



その時、初代会長に就任されたのが、高山自治会長の井上晴彦さんでした。

川和地区連合町内会が歴史ある自治会であるのに対し、ふれあいの丘連合自治会はニュータウンという性格を持っています。

それは井上さんのお話からもうかがい知ることができます。井上さんによりますと、例えば高山自治会では平均年齢が38歳からほとんど上がらないとのこと。それだけ若い人の流入が多い、出入りが多い地域なのです。

一方で、それまでの自治会長からは「自治会は若い人を相手にしてもダメ」と言われました。それに疑問を持った井上さんは、若い人のためになる自治会を目指しました。

つづき楽生のI mさんとつながったこともあり、井上さんは、情報発信に力を入れるようになりました。そのコンセプトは、行政・自治体の目線とは異なる、自治会の目を通した都筑を全国に発信することです。それは、小さな地域から見た都筑であり、ハードではなく、人と人とのかわりや人の思いを伝えることです。

そして、「若い人にも地域の良さや地域コミュニティの大切さを伝え、自治会活動に参加していただくようにしていきたい」と語られました。

それで、昨年ブログ（※注1）を立ち上げ、情報発信に努めています。

※注1：井上さんが立ち上げた高山自治会のホームページ

<http://blog.goo.ne.jp/takayamajitikai>

井上さんはI mさんとつながったことで、自分も成長したと語られました。また、I mさんや松本さん（地域振興課）との出会いが、更なる出会いにつながりました。その広がりを実感しているそうです。

井上さんが地域活動で自分に言い聞かせているのは、目的意識を持つこと、「他人が・・・」ではなく「自分が・・・」に置き換えることです。また、「ダメ」と「?マーク」が活動の出発、と話されました。

井上さんの挨拶をお聞きして、井上さんは講師というよりは、つづき楽生の方といっしょに地域活動を行う仲間、あるいは“つづき楽校”にとって大切なパートナーであると感じました。

《卒業の歌》

この報告の冒頭にご紹介した卒業の歌です。

N hさんの指揮で歌います。

N hさんは“蛍の光”と“揚げば尊し”の歌詞を準備しましたが、「中島さん・田中さんへの感

謝の気持ちを表したい」ということで、つづき楽生みんなで“揚げば尊し”を歌うことになったのです。



筆者もその昔、卒業式で“揚げば尊し”を歌いました。でも、きょうのように卒業生自らの思いで歌われた“揚げば尊し”は、初めてです。「これが本当の“揚げば尊し”なんだな～」と思いました。そして感動に浸しながら聴きました。

《閉式の辞&おまけ》

こうして、平成22年度 市民活動支援講座“つづき楽校”の卒業式は、田中さゆりさんの閉式の辞で終了しました。

でも、おまけがありました。

中島さん・田中さんへの花の贈呈です。

Zsさんが「この1年“つづき楽校”を支えていただいた中島さん・田中さんによって素敵な仲間がつながっていったと思います。それで、感謝の気持ちを込めて、花を贈呈したいと思います。贈呈者は3時間目の自己紹介で賞をいただいたTeさんとFtさんです。花はSsさんが心を込めてつくりました。花が保つように温度管理しながら、最高の状態で贈呈できるようにしました」と紹介。Teさん・Ftさんから中島さん・田中さんへ贈呈されました。



さらに、地域振興課の松本さんと谷本さんにも温かい拍手が送られました。Imさんは「松本さんと谷本さんの後押しがあったら“つづき楽校”が出来たのです」と言います。なんだかよくわからないような講座を行政として開催するために尽力された松本さんと谷本さんも、けっして忘れてはなりません。

きょうの卒業式で谷本さんは、式が滞りなく進行するために、裏方で支えていました。

松本さんは2009年11月の“すぎなみ大人塾・だがしや楽校@妙法寺”を中島さんといっしょに見学されました。それで筆者も松本さんは印象に残っています。

加えて、同じく地域振興課の田口さんの協力も忘れてはなりません。きょうの卒業式は事情によって出席できなかった田口さんへ、卒業式の後に開かれた謝恩会で、全員が感謝のメッセージを色紙に書きました。筆者も書きました。

このように、多くの人の後押しや支えがあったから“つづき楽校”は1年間開くことができたのです。



このことを忘れず、素直に感謝の気持ちを表すつづき楽生の皆さん、中島さん・田中さんも素晴らしいです。

M sさんから提案があったように、このあとの活動に向けての体制作りにも着手しました。代表には、Z sさんが選ばれました。

先程からご紹介していますが、卒業式の後、午後1時すぎから、中島さん・田中さんへの御礼を込めて、つづき楽生の皆さんが、都筑区役所の近くにある“かけはし都筑”（港北ニュータウンまちづくり館）にて開かれました。

ここでは、若い方が中心になってアイスブレイクを行い、「つながり」を深め合いました。筆者もアイスブレイクに参加しましたが、企画された若い方々にも拍手を送ります。とても楽しく、また、筆者にとっても、つづき楽生の皆さんとのつながりをさらに深めることができました。

《振り返り》

卒業式に振り返りはないかもしれませんが、とにかくお伝えしたいことがたくさんありますので、烏滸がましいのですが、ご紹介します。

つづき楽生のスピーチは、まるで卒業論文のようでした。筆者はそれを代筆しただけです。本当に素晴らしいスピーチでした。きょうの卒業式で、つづき楽生の皆さんが、あらためて先生・講師としてデビューされたのです。

本報告の前半では、中島さん・田中さんがつづき楽生の人たちに対して真っ正面から向き合ったことをご紹介しましたが、中島さん・田中さんのつづき楽生の人たちに対する絶妙な関わり加減も見事であります。

つづき楽生の自主性を尊重しながらも、つづき楽生の様子を見ながら適度にサポートしていたのです。

受講者の自主性を尊重するとは何でしょう。例えば、課題に遭遇した時、意見がぶつかり合った時、「受講者の皆さんで話し合って解決してください」と思うでしょう。でも、そうであれば、なんでも受講者が考えて決めなければならない講座であることを、開講する時に受講者へ明確に伝える必要があります。ところが、中には「受講者の自主性を尊重する」と言いながら、主催者がいつの間にか“目指すゴール”を決めている場合があります。

“つづき楽校”は講座の趣旨を明確に示していました。その中で、つづき楽生の自主性も尊重しました。だから、つづき楽生が悩んだり、本来の道から外れそうになると、中島さん・田中さんは、しっかりサポートしたのです。

このような「関わり方の加減」については、講座・セミナー・研修会を主催する人たちは、おおいに学んでほしいと思います。特に最近では、一方的に講師の話聴く講座は少なくなり、受講者の自主性を引き出す講座が多くなっています。そういう意味で「関わり方の加減」は重要性が増しています。

中島さん・田中さんの見事な「関わり方の加減」は、結局はつづき楽生の自主性を引き出すこ

とにつながりました。

「つながり」をテーマにした“つづき楽校”。筆者も頻繁に「人と人とのつながり」とか「コミュニケーション」という言葉を使います。しかし、「人とのつながり」や「コミュニケーション」は非常にデリケートでもあります。このデリケートさを考えもせず、「人とのつながり」や「コミュニケーション」だけを唱えるケースを見ますと、心が痛む今日この頃です。

中島さん・田中さんは、このデリケートさもわかっていました。だから、つづき楽生の中での「つながり」を考え、適度な対応を行っていました。これも、中島さん・田中さんとつづき楽生の皆さんとの信頼関係が深まった背景なのです。

本報告の前半でもご紹介しましたが、市民活動支援講座としての“つづき楽校”は、本年度（平成22年度）限りの講座です。でも、逆に「それが良いのではないか」とも思います。

なぜなら、つづき楽生の皆さんは、次の“つづき楽校”に向けての活動を展開し始めているからです。Nkさんの説明にもありましたが、“つづき楽校”は地域とつながり始めているのです。

“つづき楽校”は学びが目的ではありません。市民活動のための講座です。都筑という地域を住み良い地域にするための講座です。つまり、都筑が抱えている地域の課題を解決する人たちを支援するための講座であり、また活動する人を育成する講座であります。

これが単に支援や育成の講座だったら、毎年開いて卒業生の人数を増やすことも考えられます。しかし、活動（者）が増えても「地域づくりにつながっているか」というと、必ずしもそうとは言いきれません。そこに、横だけでなく、縦・斜めの「つながり」があると、市民活動の力は大きなものになります。それも「プラス」ではなく「プラスアルファ」です。

“つづき楽校”が「つながり」をテーマにしている意味をここでも見出すことができます。だから、Nkさんが作られた“つづき楽校”を中心にした「つながり」の絵は、物凄い意味を持っているのです。その「つながり」は更なる「つながり」に展開し、市民活動の輪は広がっていきます。

その意味で、都筑区民活動センターの役割も大きいです。

1月31日、筆者が都筑区民活動センターを訪問して、中島さん・田中さんから報告を受けて申し上げたのは、都筑区民活動センターは「毎日がつづき楽校（だがしや楽校）です」。

つまり、講座が開かれた時だけ、あるいは11月14日の“わいわい横丁”だけが“つづき楽校”（だがしや楽校）ではないのです。なぜなら、次回の講座を開くためにつづき楽生の人たちは頻繁に都筑区民活動センターを訪れては、中島さん・田中さんに聞いたり・相談したり・準備したりしました。また、すでに始まっている地域との「つながり」でも都筑区民活動センターを訪れています。1月31日もNkさんがひょっこり来られたのも、そのひとつなのです。

講座や“わいわい横丁”に至るプロセス、その後のプロセスが大事なものは、皆様ご承知の通りです。そのプロセスも“つづき楽校”（だがしや楽校）なのです。さらに申せば、日常の中に“つづき楽校”（だがしや楽校）が浸透することが、最終的に目指す姿です。

これで本当の地域づくりにつながります。

だから、都筑区民活動センターの「毎日がつづき楽校（だがしや楽校）」も凄いことなのです。

「自分みせ」がキーワードである“だがしや楽校”。これについて、中島さんたちは「人と話す

ことで、自分がみえる」と言います。なんという言葉なんでしょう。

でも、考えてみますと、自分のことって、本人が一番わからない、と言います。だから、受講者（つづき楽生）同士の「つながり」も大切なのです。

“つづき楽校”の初日は、横浜市内からたくさんの方が見学に来られました。これも、その後の「つながり」に展開しました。特に筆者にとって、その後の活動に良い意味で大きく影響しました。

一方、きょうの卒業式は、つづき楽校と中島さん・田中さんなど関係者のみで執り行われました。これは“つづき楽校”で築かれた「つながり」を大切にしたい思いがあるからです。

そういう大切な場に筆者は招かれました。ということは、筆者（山口）は“つづき楽校”の一員なのでしょう。究極の喜びです。

筆者の“だがしや楽校”普及活動やこのような取材活動は、いわゆる営業活動や一方的な取材ではありません。だから、例えば「インタビューすれば良い」という取材ではありません。それこそ「つながり」を築くことが本当の目的です。言い換えると「つながり」を築くことが“だがしや楽校”の普及なのです。

そう考えますと、つづき楽生の皆さん、そして中島さん・田中さんへは感謝の言葉もないほどです。思い付く言葉は、これだけです。

感動の卒業式、そして“つづき楽校”、ありがとうございました

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター